

Distr. East Nepal.

This variety is distinguished from var. *monophyllos* by the short lip with obtuse apex.

We are grateful to Ms. Mutsuko Nakajima for the detailed illustration. We are indebted to Mr. Madhusdan, Director General of the HMG Department of Plant Resources, Kathmandu, who gave us facilities for our field researches in Nepal. This study was supported by a Grant-in-Aid for Scientific Research (A) from Japan Society for the Promotion of Science, no. 11691178 in 1999 and 2000 (to H. O.).

#### References

- Banerji M. L. and Pradhan P. 1984. The Orchids of Nepal Himalaya. J. Cramer, Vaduz.  
 Hara H., Stearn, W. T. and Williams, L. H. J. 1978. 13. Orchidaceae. In: An Enumeration of the Flowering Plants of Nepal, 1: 30–58. Trustees of British Museum (Natural History), London.  
 Mizushima M. 1967. On *Malaxis monophyllos* Sw. in Japan. J. Jpn. Bot. 42: 159–160 (in Japanese).

日本を含むユーラシア中・北部と北アメリカ西部に広く分布するホザキイチヨウランは、これまでヒマラヤからは報告がなかった。ヒマラヤから記載された *Malaxis muscifera* (Lindl.) Kuntze はホザキイチヨウランに類似しているが、今回東京大学総合研究博物館にあるヒマラヤのラン科植物を研究した結果、上記に同定された標本や未同定標本の中にホザキイチヨウランに当たる標本を見出した。これは本種のヒマラヤからの最初の報告である。また、ネパールで採集された標本中には唇弁の先端が鈍頭に終わるものがあったが、このような特徴をもつ個体はホザキイチヨウランからは知られていないものである。これを var. *obtusa* として記載した。

(<sup>a</sup>National Institute for Basic Biology,  
 Nishigonaka 38, Myodaiji-cho, Okazaki,  
 444–8585 JAPAN  
 基礎生物学研究所;  
<sup>b</sup>Department of Botany,  
 University Museum,  
 University of Tokyo, Hongo 7–3–1,  
 Tokyo, 113–0033 JAPAN  
 東京大学総合研究博物館)

トミサトオトギリ (新称) *Hypericum mutilum* L. の帰化 (大場達之<sup>a</sup>, 木村陽子<sup>b</sup>)  
 Tatsuyuki OHBA and Yoko KIMURA: *Hypericum mutilum* L., Naturalized in Chiba Prefecture, Japan

千葉県印旛郡富里町は、千葉県北部の他の地域と同じく、火山灰台地と、それに切れ込む浸食谷 (このあたりでは谷津と呼ぶ) から成るところで、成田空港の東南に位置する。富里町に住む折目庸雄氏は、かねてからこの地域の植物相を調査され、標本に基づいて地元の植物誌を編纂されている (折目1993)。その標本はすべて千葉県立中央博物館に寄贈されているが、そのなかに一見アゼオトギリに似たものがあった。これと同じものを富里町に隣接する芝山町からも採集されている (折目1997)。この植物は葉に多くの明点があって黒点を欠くこと、田の畦道で採集されたということもあってわれわれはアゼオトギリと

誤認していた。しかし花が小さく、花序に多くの花をつけるなどアゼオトギリに一致しない点が多いので、1998年9月に折目氏に富里町の自生地をご案内いただくとともに、真のアゼオトギリについても若干の観察を行った。

この植物は多年草で、茎は直立し高さは30–60 cm、上部で広い角度で長い枝を多く分つ。茎葉は卵形から長卵形で、やや蒼白色を帯びた緑色で透明点が密にある。花序は集散花序となり、花序上端の葉は楕円形。花はコケオトギリに似て直径3.5 mmほど、花弁はレモン黄色で、コケオトギリより赤味が薄い。雄蕊は6–8本で離生。萼片は不同長、果実は楕円状で長さ2.5–3 mmで隔壁がなく1室、

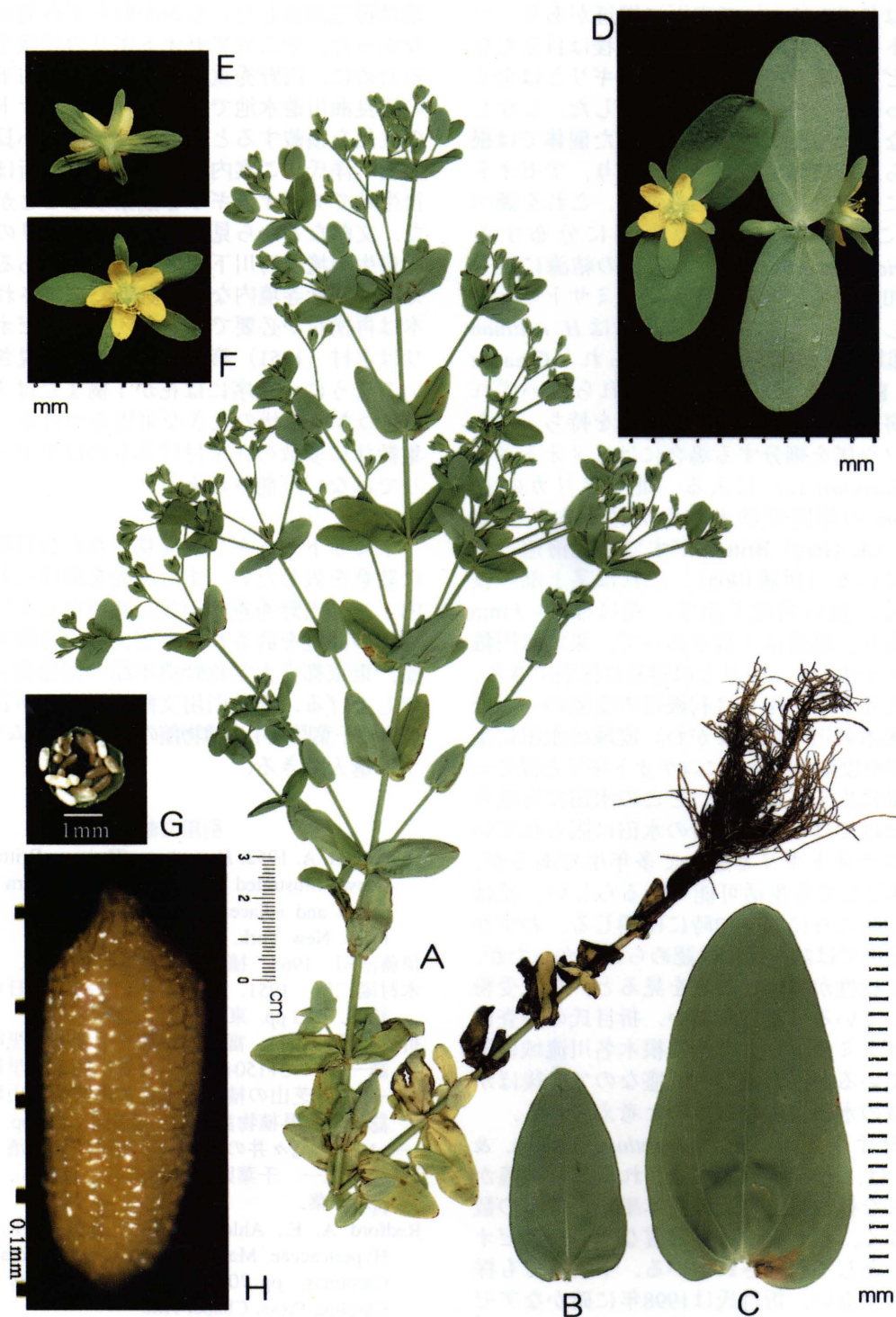


Fig. 1. *Hypericum mutilum* L. A. Habit. B. Branch leaf. C. Middle cauline leaf. D. Terminal of inflorescence. E. Under surface of flower. F. Upper surface of flower. G. Transsection of half-matured capsule. H. seed. A: 全形, B: 花序枝の葉, C: 主茎の葉, D: 花序の上端部, E: 花の下面, F: 花の上面, G: 果実横断面, H: 種子.

種子は長さ0.42 mmで表面に網斑があり、コケオトギリに見られるような縦稜は目立たないなどの特徴を持ち、アゼオトギリとは全く異なったものであることが判明した。しかし畦道などに生えて踏まれたりした個体では根際から芽を出して枝が横に広がり、アゼオトギリに似た形となるものもある。これを調べたところ、北アメリカ東部に分布する *Hypericum mutilum* L. であるとの結論に達した。和名は発見地にちなんでトミサトオトギリとしたい。北アメリカ東部には *H. mutilum* に近似の種類がいくつか知られ (Gleason 1952, Radford et al. 1968), これらはいずれも子房が1室で、葉に明点のみを持ち、オトギリソウ属を細分する場合にはヒメオトギリ属 (*Sarothra* L.) に入る。北アメリカの *H. mutilum* の仲間ではオオカナダオトギリ *H. majus* (A. Gray) Britton がすでに北海道に帰化している (伊藤1965)。これは茎上部の枝が短く、狭い角度で出て、花は径5-7 mmほどあり、雄蕊は十数本あって、果実は円錐状でトミサトオトギリとは容易に区別できる。

トミサトオトギリは利根川の支流の一つである根本名川 (ねこながわ) 流域の水田に生え、畔や放棄水田などにコケオトギリと混じって多量に生えているが、どこの水田にも見られるわけではなく数カ所の水田に限られている。コケオトギリと違って多年生であるが、1年草としても生活可能であるらしい。花は午前10時ころに開き12時には閉じる。わずかな観察例では訪花昆虫は認められなかったが、極めて稔性が高いところを見ると、自家受粉を行っている可能性が高い。折目氏の調査によればトミサトオトギリは根本名川流域に限られているが、繁殖力が旺盛なので今後ほかの地域の水田に広がるものと考えられる。

アゼオトギリ (*H. oliganthum* Franch. & Sav.) は、その名から想像されるよりは遙かにまれな植物で、各所の標本庫にも標本の数が少なく、しかもかなり異質なものがアゼオトギリとして収蔵されている。千葉県でも採集例は少ない。折目氏は1998年に確かなアゼオトギリを富里町の西に隣接する酒々井町で採集されている (折目1999)。しかしその産

地は再三調査したにもかかわらず再発見できなかった。そこでアゼオトギリの認識を改めるために、内野秀重氏が栃木県小山市下生井の渡良瀬川遊水池で採集されたアゼオトギリの生品を頂戴するとともに、茨城県小貝川を堀内 洋氏にご案内いただいて5カ所ほどの自生地でアゼオトギリを観察することができた。文献などから見てもアゼオトギリの本来の自生環境は河川下流域の氾濫原であると考えられ、社寺境内などの日陰で採集された標本は再検討が必要であろう。またアゼオトギリは木村 (1951) 第71図に正しく図説されているように、花序には花が1個またはまれに2個つき、球状の大きな果実をつける。1枝集散状に多数の花を付けるものはアゼオトギリではない可能性がある。

トミサトオトギリを発見された折目庸雄氏に敬意を表したい。また調査を助けられた堀内 洋、内野秀重の両氏に感謝申し上げる。標本の閲覧を許された東京大学総合研究博物館、東京都立大学牧野標本館の関係者にお礼申し上げる。なお引用文献に掲げた折目氏の著書は千葉県立中央博物館のミュージアムショップで購入できる。

#### 引用文献

- Gleason H. A. 1952. *Hypericum*. The new Britton and Brown Illustrated Flora of the Northeastern United States and adjacent Canada II: 536-544. Hafner Press, New York.
- 伊藤浩司 1965. 植物研究雑誌 40: 219.
- 木村陽二郎 1951. オトギリソウ科. 大日本植物誌10. 273 pp. 東京.
- 折目庸雄 1993. 富里の植物—千葉県富里町植物誌— 14+3+150+12 pp. 自費出版. 富里町.
- 1997. 芝山の植物—千葉県山武郡芝山町植物誌—千葉県植物誌資料 特集1. 60 pp. 千葉.
- 1999. 酒々井の植物—千葉県印旛郡酒々井町植物誌—千葉県植物誌資料 特集3. 8+63 pp. 千葉.
- Radford A. E., Ahles H. E. & Bell C. R. 1968. Hypericaceae. Manual of the vascular flora of the Carolinas. pp. 709-717. The University North Carolina Press, Chapel Hill.
- (\*)158- 東京都世田谷区  
\*273- 千葉県船橋市